

令和元年10月吉日

山科中学校生徒の皆さんへ

山階南老人クラブ連合会
東友会々長 宮田 君夫
延寿会々長 大西 弘子
みどり会々長 西谷千賀子
おちり会々長 勢志 信義

暑い盛夏から勉学の季節を迎えました。秋の季節は実りの季節で活力に溢れた日々を過ごすのに最適の季節です。

山科中学校生徒の皆さん方は毎日勉学に！、スポーツに！、文化祭に！、合唱コンクールに！、そして読書のほか友と語り元気で楽しい学校生活を送っておられることとおっております。

今年も心のこもった贈物をいただきまして誠にありがとうございました。老人クラブを代表して厚くお礼を申し上げます。

いただいた贈物のカレンダーは、9月1日山階南小学校で開催された“福祉祭”の会場で鍵野校長先生から学区の皆さんにご披露していただいた後、各クラブに配分しお年寄りの会員にお届けしたところ、心待ちにされていたこともあり大変喜んで受け取っていただきました。

今年の福祉祭には、山科中学校吹奏楽同好会の演奏が初めて披露され、私ども生演奏の迫力に感動し、血液が逆流するかの如く躍動感を覚え活力を得た思いから、今後地域の催事に積極的に参加していただき躍動感あふれる演奏を聞く楽しみが出来ました。

カレンダーのメッセージに生徒さんの名前が無いのは残念で、今回も各会々長連名で会員が持ち寄りしました雑巾を添えてお礼の返事を書くことに致しました。

私どもの老人クラブは、山科区が東山区から分区したのが43年前ですが、東山区制当時から活動し半世紀以上に及ぶ歴史ある任意の親睦会です。会員の年齢差は60歳代から90歳代と幅広く、趣味・嗜好なども異なり会員の殆どの方が何らかの病気を抱え日々通院、療養を繰り返すなかで、ごく一部の元気な会員が手芸や新舞踊、グラウンドゴルフ、ペタンク、スカイクロス（輪投げ）などのスポーツを楽しみながら互いに支え合い育み合って健康、体力維持に努める一方、社会参加の一環として地域の三ノ宮神社や公園、バス停などの清掃等美化奉仕を継続して活動しています。

老化の始まりは、歯が欠け視力の低下、難聴、更に高齢者特有の動作が緩慢となり足腰が弱りやがて脚力低下により平坦な場所でも転倒、骨折、入院と続き体力減退の先は予想もしなかった介護へと実に惨めな結果が待っているのも事実です。

このような訳で、私どもにとって大事なことは“日々健康維持の継続”です。老い行く体力を如何に維持し、健康を保ちながら社会の一員として元気に生活出来るか！を、それぞれが常に心の奥底に抱き仲間とともに集団で励んでいるのです。

山科中学校生徒の皆さん方は“日々努力と挑戦の継続”です。あなた方はこれから伸び行く上昇年代であります。学校正門横に掲げられた“山科の心”のとおり

折れない心・つまり挫けない強い意思・信念

熱き心・つまり熱血漢、激しい心意気

優しい心・つまり思いやり

の心で挫けず、驕らず、日々青春を謳歌し続けていただきたい。良きにつけ悪きにつけ心の持ちよう“心次第”です。それがまさに“山科の心”と思います。

今の時期は、勉学は勿論のことスポーツに励み体力を鍛え、友と語り合い育み合って友情を深めるなど何事にも貪欲に挑戦し大きく成長して欲しいと思っています。

そして多くの友と思い出の残る有意義な楽しい中学生生活を送られることを祈願してお礼の言葉と致します。

最後になりましたが、鍵野校長先生をはじめ諸先生方には、老人クラブに対して深いご理解を賜り感謝申し上げます。ありがとうございました。